

## 寝屋川キリスト教会

## 神の国のロードマップ(ルカ 17:20-37)

## 1. 神の国はいつ?(17:20-21)

ロードマップとは、目標を達成するためにすべきことをリストアップして、達成までの大まかなスケジュールを示すものです。そして神もロードマップを描いています。それはこの世界に対する救いの計画です。天地創造から始まり、アブラハムを選んでイスラエル民族を神の民としました。イスラエルはエジプトで多くの民となり、モーセに率いられてエジプトからカナンの地に向かい、イスラエルの国を造り、ユダ族の中からダビデを王としました。しかしダビデ以降の王や国民は神に背いて罪を犯し、国は滅びました。それでもイスラエルの国は再建され、ダビデの子孫からイエスが生まれたのです。これが神の救いのロードマップの一部です。

イエスは神の国の教えを説きましたが、当時の人々にとって神の国とは、イスラエルを支配していたローマ帝国を打ち負かし、ダビデ・ソロモン時代のような繁栄した国家に再建されることでした。それでイエスがイスラエルを救って神の国を築くメシアではないかと期待したのです。だからパリサイ人たちは「神の国はいつ来るのか」とイエスに尋ねました。

「神の国があなたがたのただ中にある」(17:21)という答えは、イエス自身がこの世で人々の中にいて、働きをしていることを指しています。これはイエスが働きの初期にイザヤ書を朗読したことを思い出させます(4:16-19)。その箇所には、油注がれた者(メシア)が捕らわれている人を解放し、目の見えない人を癒やして見えるようにし、社会の隅に追いやられ差別されている人を自由にするとあります。

この時イエスは「この聖書のみことばが実現した」と言いました(4:21)。イエスがもたらそうとした神の国は、敵に勝つこと、政治的国家を築くこと、人々が豊かになることではなく、貧困、苦痛、差別、孤独の中にいる人を助ける働きだったのです。

このことは現代に生きる私たちへのチャレンジでもあります。なぜなら私たちの周りにも、痛み、悲しみ、孤独を感じ、助けを求めている人がいるからです。私たちはそれらの問題を共有して神の赦しと解放を宣言し、神のみこころを実現する使命が与えられているのです。私たちは神の救いのロードマップを実現するため、神に召された存在なのです。

## 2. 人の子の日(17:22-37)

神の国のロードマップはさらに続きます。ここでは「人の子」という表現が繰り返されています。イエスは自分のことを「王」や「キリスト(メシア)」ではなく、「人の子」と呼びました。それ

は人類の罪のさばきを身代わりになって受ける苦難のメシアであり、同時に世の終わりの時に世界にさばきと支配をもたらす王としてのメシアを指しています。イエスは人々が期待したローマ帝国に勝ってイスラエルを救う政治的な王ではないということです。ですからイエスがメシアとして支配される時は前兆がなく、稲妻が落ちて輝くように一瞬にして起きるのです。それは創世記にあるノアの洪水の時のようであり、ロトの時のさばきのようだというのです。人々が油断しているときに神のさばきが突然下るのです。だから人々の噂話を信じていけないとイエスは注意しています。

17:33 で「自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます」と言っているのは、律法学者やパリサイ人のことを指しています。自分のことばかり考えて、自分の命を救おうとする人は、かえって自分の命を失い、逆に自分のためだけに生きるのではなく、他の人のために自分の命を使って生きようとするとき、神が、私たちにほんとうの命を与えてくださるのです。

ロトの妻は、神のさばきをくぐり抜けて助かったのに、神の命令に従わなかったため命を失いました。神のことばに従わず自分のことしか考えない人は滅びに向かい、神の恵みに応えて他の人のために自分をささげる生き方をしていくときに、神の国が私たちの間に実現します。神の栄光と祝福が私たちを通して表されるのです。取税人や罪人とされていた人々とパリサイ人や律法学者などイエスを受け入れなかった人々との間にさばきが起こり、一方は神によって救われ、もう一方はその場に残されてさばかれるという警告です。

それを聞いた弟子たちが「主よ、それはどこで起こるのですか」と質問し、イエスは「死体のあるところ、そこには秃鷹が集まります」と答えました。これは神のさばきが下って残された人は死に、その死体があるところに秃鷹が群がるということです。

今日の箇所ではイエスに2つの質問がありました。「神の国はいつ来るのか」「神のさばきはどこで起きるのか」ところがイエスはどちらの質問にも明確に答えません。イエスは、いつどこで起きるかよりも、イエスがメシアとなってこの世に来られ、神のさばきが下るときが必ず来ることをまず知るべきだということです。そして、その時に備えて、神のさばきに遭うことがないように、注意して歩みなさいと弟子たちに命じたのです。

イエスが再び来られ、さばきをされるときに備えて、いつでも落ち着いて生活することが必要です。それは特別な新しいことではなく、いつも神との交わりを保ち、神の子として歩むということです。神の愛に応える者となり、イエスが愛してくださったように互いに愛し合い、自分のためだけに生きるのではなく、自分を与えていく生き方を実践するのです。その時、神の国は私たちの間にもあると言えます。私たちが神の国をこの世にもたらす存在となるのです。それが神の救いのロードマップ<sup>o</sup>実現のために召された私たちの使命です。